B 個別学習（B５）

主な学習活動

（家庭）身の回りの「MADE IN アジア」を探す。
（学校）身の回りのアジア製品の多さに気付き、その理由を考える。

1 本時のねらい

身の回りに多くのアジア製品があることに気付き、その理由を考えることができる。

2 主に活用したＩＣＴ機器・コンテンツ等

Google Classroom　**Google Jamboard**　**電子黒板**

3 参考にしてほしいポイント

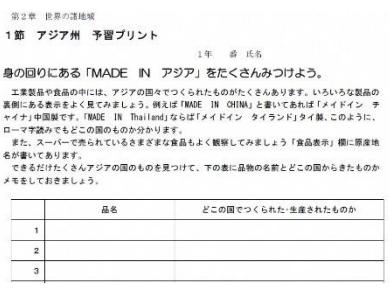
生徒が授業の中で各家庭にあるアジア製品を思い出すのではなく、各家庭で課題（身の回りのアジア製品探し）に取り組むことで、より多くのアジア製品の例を挙げることができる。授業では、多くの例を基にして話合いを進めることができる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
（家庭） （学校） 展開	• Google Classroomに示された課題に取り組む。 • 「アジア各国からの主な輸入品」について調べる。 • 気付いたことをGoogle Jamboardの付箋に書いて話し合う。	（Google Classroom）教師が課題を配信し、生徒が持ち帰っているタブレットで家庭で取り組むことができる。 （Google Jamboard）授業で気付いたことや身の回りにアジア製品が多い理由を付箋に記し、意見を比較したり類似点を確かめたりすることができる。

タブレット

＋

電子黒板


第２章　世界の諸地域

１節　アジア州　予習プリント

１年　　番　氏名

身の回りにある「MADE　IN　アジア」をたくさんみつけよう。

工業製品や食品の中には、アジアの国々でつくられたものがたくさんあります。いろいろな製品の裏側にある表示をよく見てみましょう。例えば「MADE　IN　CHINA」と書いてあれば「メイドイン　チャイナ」中国製です。「MADE　IN　Thailand」ならば「メイドイン　タイランド」タイ製。このように、ローマ字読みでもどこの国のものか分かります。

また、スーパーで売られているさまざまな食品もよく観察してみましょう「食品表示」欄に原産地名が書いてあります。

できるだけたくさんアジアの国のものを見つけて、下の表に品物の名前とどこの国からきたものかメモをしておきましょう。

	品名	どこの国でつくられた・生産されたものか
1		
2		
3		

Google Classroomで配信した課題

身の回りにアジア製品が多い理由を記した付箋を集めたGoogle Jamboard

4 活用効果

アジア州の学習を始める以前から課題をクラスルームに示したことで、生徒たちが家庭の身近なところで様々なアジア製品を見つける活動を行うことができ、実生活と学習内容の関わりを意識させることができた。また、身近なアジア製品の例が多く挙げられたことで、より多面的多角的な思考が可能になった。

5 アドバイザーからのコメント

各家庭にある身近なアジア製品を調べることによって、日本とアジアの関わりや自国文化などが学習できます。その場合に必要なことは、いくつかの視点があることであり、その視点を見いだすために、比較などの思考が求められ、そのために道具を活用するのです。（東京工業大学　赤堀侃司）

反転授業のように予習を行った内容について検討を進めることは、今後の学び方にとって大きな意味合いを持つと考えます。端末を持ち帰ると実物の写真を撮ることも可能になるため、その写真をデジタル地図などに貼り付けて検討すると、より実感を持った検討も可能となりそうです。（福島大学　平中宏典）